

議 事 日 程 (第1号)

令和2年3月30日(月曜日) 午前10時 開議

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 会期の決定

日程第3 議第72号 令和2年度下呂市一般会計補正予算(第2号)

出席議員(13名)

議長	各 務 吉 則	1 番	尾 里 集 務
2 番	中 島 ゆき子	3 番	田 中 副 武
4 番	今 井 政 良	7 番	宮 川 茂 治
8 番	中 島 博 隆	9 番	伊 藤 嚴 悟
10番	一 木 良 一	11番	吾 郷 孝 枝
12番	中 島 新 吾	13番	中 島 達 也
14番	中 野 憲太郎		

欠席議員(なし)

欠 員(1名)

地方自治法第121条の規定により説明のため会議に出席した者の職・氏名

市 長	服 部 秀 洋	副 市 長	村 山 鏡 子
教 育 長	細 田 芳 充	市 長 公 室 長	桂 川 国 男
総 務 部 長	河 尻 健 吾	教 育 部 長	今 井 藤 夫
観 光 商 工 部 長	細 江 博 之	消 防 長	田 口 伸 一
会 計 管 理 者	中 島 祐 子	金 山 病 院 長	吉 田 修
健 康 福 祉 部 長	田 口 広 宣	生 活 部 長	藤 澤 友 治
建 設 部 長	二 村 忠 男	環 境 部 長	中 原 則 之
農 林 部 長	河 合 修	萩 原 振 興 長	松 井 克 彦
小 坂 振 興 長	倉 田 誠	下 呂 振 興 長	小 畑 一 郎
金 山 振 興 長	澤 田 勤 之	馬 瀬 振 興 長	見 廣 洋 始

本会議に職務のため出席した者の職・氏名

議会事務局長	加 藤 鈴 彦	書 記	今 井 満
--------	---------	-----	-------

◎開会及び開議の宣告

○議長（各務吉則君）

おはようございます。御苦勞さまでございませう。

ただいまの出席議員は13人で定足数に達してございませう。

これより、令和2年第2回下呂市議会臨時会を開会いたしませう。

本日の会議を開きませう。

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりでございませう。

なお、報道機関、広報「げろ」及び下呂ネットサービスより取材の申込みがございませうので、これを許可いたしませう。

◎会議録署名議員の指名

○議長（各務吉則君）

日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

本日の会議録署名議員は、会議規則第88条の規定により、14番 中野憲太郎君、1番 尾里集務君を指名いたしませう。

◎会期の決定

○議長（各務吉則君）

日程第2、会期の決定を議題といたしませう。

お諮りしませう。本臨時会の会期は、本日1日といたしませうと思ひませう。これに御異議ありませうんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

異議なしと認めませう。よって、本臨時会の会期は、本日1日と決定いたしませう。

◎議第72号について（議案説明・質疑・討論・採決）

○議長（各務吉則君）

日程第3、議第72号 令和2年度下呂市一般会計補正予算（第2号）を議題といたしませう。

議第72号の提案理由の説明を求めませう。

市長。

○市長（服部秀洋君）

おはようございませう。

3月定例会最終日、閉会に当たって御挨拶をさせていただきました中に、もしかして再度お集まりいただくというような内容を申し上げませう。

実は、19日、定例会終了後に部長会議を開催いたしませう。その中で、ちょうど20日から3連

休が始まりますので、一体市民の皆さんがどういったことをこの新型コロナウイルスの対策として望んでいらっしゃるか、そして町なかのいろいろなお仕事等、また御家庭の事情を情報収集、モニタリングをするよう指示をいたしました。そして3日後、月曜日でございますが、各担当部からの情報を集めた中で、今回の補正について決定をしたところでございます。

上程をされました議第72号 令和2年度下呂市一般会計補正予算（第2号）につきまして、提案理由の説明を申し上げます。

今回の補正予算につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響により、消費の低迷が予想される市内飲食店への緊急の支援策といたしまして、飲食店での使用に特化したプレミアム商品券、下呂市グルメプレミアム食事券の発行及び新型コロナウイルス感染症の影響で本年1月以降の融資貸付額が増加しております経営安定資金融資事業につきまして、当初予算に見込んでおりました預託金の予算額に不足が生じる見込みでございますので、増額補正を行うものでございます。

冒頭に申しましたモニタリングをした結果、やはり市内でのお客さんの動向、確かに若い方は非常に多くなった様子でございました。しかしながら、インバウンドはもちろんでございますが、高齢者の方々がなかなか外に出ておられない。また、飲食店につきましては、ふだんのお客様は見えるそうでございますけれども、特に、この年度末に当たって宴会等を予定しておられた、全てキャンセルになっておるということで、そういった打撃が非常に大きいというようなお話が聞こえてまいりました。こういったことから、今回の補正をお願いするところでございます。

詳細につきましては総務部長より説明を申し上げます。よろしく願いいたします。

○議長（各務吉則君）

次に、議第72号について、詳細説明を求めます。

総務部長。

○総務部長（河尻健吾君）

それでは、おはようございます。

議第72号 令和2年度下呂市一般会計補正予算（第2号）について、詳細説明をいたします。

議案書の1ページをお開きください。

令和2年度下呂市の一般会計補正予算（第2号）は、次に定めるところによる。

第1条は、歳入歳出予算の補正です。歳入歳出予算の総額にそれぞれ2億839万円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ226億2,839万円とするものです。

款項の区分、金額等は、第1表 歳入歳出予算補正によるものです。令和2年3月30日提出。

2ページをお開きください。

第1表 歳入歳出予算補正です。

上段は歳入補正で、20款繰入金、1項基金繰入金7,000万円の増額は、歳出の財源とするため、財政調整基金から繰り入れるものでございます。

22款諸収入は1億3,839万円の増額で、内訳は、3項貸付金元利収入は、経営安定資金融資預

託金の回収金1,692万円と、5項雑入1億2,147万円の増額は、プレミアム食事券販売収入でございます。

次に、下段は歳出補正で、7款商工費、1項商工費2億258万4,000円の増額は、新型コロナウイルス感染症の影響で貸付額が増加している経営安定資金融資事業の預託金の増額と、飲食店での使用に特化したプレミアム食事券の発行に係る事業費を増加するものでございます。

14款予備費は、財源調整のため、580万6,000円を増額いたします。

事項別明細書で説明をいたします。4ページをお開きください。

歳入の事項別明細書でございますが、先ほど歳入予算補正で説明した内容と同じでございますので、省略をさせていただきます。

次に、5ページをお願いします。

歳出補正について説明いたします。

7款商工費、1項商工費、2目商工業振興費、経営安定資金融資事業1,692万円の増額は、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年1月から3月にかけて融資貸付額が増加しており、当初予算に見込んでおりました預託金の予算額に不足が生じる見込みとなっておりますので、経営安定資金融資預託金を増額補正するものでございます。

次に、下呂市グルメプレミアム食事券事業は、新型コロナウイルス感染症による緊急経済対策として、市内飲食事業者で使用できる下呂市グルメプレミアム食事券を発行し、消費喚起を図るために必要な経費を増額補正するものでございます。この事業は、市内の全世帯を対象に1万5,000円分を1万円で購入できるプレミアム付食事券を発行するものでございますが、商品券の取扱金融機関に対する交付金1億8,220万5,000円のほか、食事券の印刷代や販売及び換金の委託料など1億8,566万4,000円を増額いたします。

14款予備費につきましては、財源調整のため、580万6,000円を増額するものでございます。

以上で、令和2年度下呂市一般会計補正予算（第2号）の説明を終わります。御審議のほどよろしく願いいたします。

○議長（各務吉則君）

これより本件に対する質疑を行います。

質疑はありますか。

[挙手する者あり]

14番 中野憲太郎君。

○14番（中野憲太郎君）

ただいま、説明を受けました。これは、前に27日でしたか、議会運営委員会が開催された折にこの説明を、今日の運営という形で協議がされました。そこでも思って今日も思ったんですが、この予算の中でグルメプレミアム食事券事業費1億8,566万4,000円の内訳等、印刷費等を聞きましたけれども、なぜこのウイルスの関係の非常事態のときに出すのに、飲食関係だけに出されるのか、私はそれが不思議で仕方ない。だから、今日いろんな説明があると思ったんですけども、

これについては、1次産業から6次産業までいろんな意味で非常に、サラリーマンの方もそうですし勤め人の方もそうですが、子供に至るまで、いろんな意味で各家庭で苦慮してみえる。そういうときに飲食業に特化してグルメという点で出されるというのは、いかにも策がないんじゃないか。どういう形でこれだけの金を生かされた金としてこれに決定されたのか、その辺を説明していただきたい。

○議長（各務吉則君）

副市長。

○副市長（村山鏡子君）

コロナ感染が、大変世界中で広がっております。時々刻々と状況が変化している中でございますけれども、そういった中で、幸いにも飛驒管内にはないわけでございますけれども、今、消費する側の心理といたしまして、大変萎縮をしておる。毎日毎日コロナのニュースが入ってくるわけでございますけれども、自粛しなければいけないというような形で、皆さんが萎縮をされてみえるような感がございます。その自粛が、最悪自粛圧力といいますか、そういった自粛を思うばかりに思考停止になるとまでは言いませんけれども、考え方が内向きになる可能性もございます。そういった中で、まずはこういった、先ほど市長も申しましたけれども、飲食業者のところを先んじて、外に出て行っていただくということで、食事をして、いわゆるストレスの解消も含め、そういう消費者心理の萎縮を止めたいということもございます。

また、そういった飲食業の方につきましては、当然感染予防には手洗い、それからせきエチケットを促していただくなどの予防、個人もそうですけれども、促していただきまして利用して、そういったストレスも含めてその支援をしたいということでございます。

ただ、この飲食業が、今手始めにやるわけでございますけれども、これまで利子補給等の補正もしてまいりました。ので、今後はまだまだ、今始まったばかりのコロナ対策になりますけれども、進めて、あらゆる分野の中でそういった影響があるということも考えておりますので、それについても徐々に深めながら支援をしていきたいと、そんなふうに考えております。

○議長（各務吉則君）

ほかに。

[挙手する者あり]

14番 中野憲太郎君。

○14番（中野憲太郎君）

今説明いただきましたけど、これ今、緊急のときに入っておるわけですが、東京とか全部、岐阜県でも20名を超えられたということで、非常に患者さんにしてみればつらい、そして家族の方もつらいことと思っておりますけれども、こういう自粛しておるときに、まず第一に自分たちの生活用品、お米にしたりトイレットペーパーとかティッシュとか、いろんな面で今、非常にスーパー等も、また市内の各業者さんたちも、その辺に関係した、大変だと思います。そういうのを、そういうところまで幅を広げた商品券、プレミアムカードという、そういう形でないと、飲食のグル

メ、じゃあそこへその食堂なり飲食店へ集まって、そりゃそこへも大切ですよ、食べていただく。しかし、それをもっとなぜ拡大されないのか。そして領収書を持ってきてくださいとか、下呂市内で何々を買われた、食事には5,000円を使われました、あとはお米を買いました、お肉を買いました、トイレットペーパーを買いましたとか、そういうのを領収書は当然各店で出されるわけですので、そういう点で使えれば、幅広い点で下呂市の市民の方が助かると思うんです。

これを第2弾でまた出すなんて言っても、またここで協議してやられるわけです。スピード感を持って、市長としてこういう議案を議会へ提出するんなら、もっとしっかりしたアクションを起こせるような、おお、さすが下呂市だという点でぱっと出るような、そういうのを教えてくださいよ。食事だけに使えるプレミアム券を、2億近いお金を出すというのはいかにも、もう終息してしまう頃よりも今が一番大事なときですので、それを今日、私は中身のある協議を議会ですていただきたい。それなら採決に加われますけど、そうでなかったらこれだけの目玉のでやろうと思ったらとんでもないことですよ。

○議長（各務吉則君）

市長。

○市長（服部秀洋君）

議員のおっしゃることもよく分かるんですけども、そういった全ての店舗で使える、例えば商品券であった場合ですが、現在起こっているような買占め、スーパーの商品がなくなる、また家庭内消費が増えるばかりで、やはりそういった中では、先ほど副市長が申しましたけれども、まずは出ていっていただくことはあんまり勧めることはできないんですけども、御本人のストレス解消の部分、そしてこの年度末で、大変そういった宴会等の中止が大きな痛手となっているような事業者が多いというようなお話から、今回このような判断をしたところでございます。

また、まずこれは第1弾でありまして、宿泊のほうについても当然、3月はまだ若い方が何とかインバウンドの分を埋めておられるそうですけれども、4月以降は特に厳しいというような話であります。しかしながら、今そういった旅行のクーポン等を打っても、そのクーポン自体を買っていただけない、旅行に来ていただけない状況の中で、その対策については、また終息の見えてきたときに大々的に打っていきたい。これからも国、県の動向、また市内の情勢等判断しながら随時対策はしっかりと取っていきたいと思っております。

〔挙手する者あり〕

○議長（各務吉則君）

14番 中野憲太郎君。

○14番（中野憲太郎君）

今答弁いただきましたけれども、これから特に下呂温泉に向けての観光客の皆さんが、4月からゴールデンウィークにかけて大変だというようなことは分かっております。しかし、これはあくまでも下呂市の市民の方に緊急で出していただくという点を強く訴えられる予算なら、私は飲食だけに使うというのはいかにもこれは策がない、そう申して質問を一応ここで終わります。

[挙手する者あり]

○議長（各務吉則君）

4番 今井政良君。

○4番（今井政良君）

ちょっと二、三点お聞きします。

こういった対策を打っていただいたということについては、何の問題はないんですけれども、今ほど中野議員も言われたとおり、今の各地区で祭礼も行われておりますし、今後行われる予定になっている地域もあります。そういうような地域が自粛ムードで神事だけとか、あと飲み食いはしないとかそういったような、市民すらそういった状態の中で、こういった飲食店だけに限定するというのは、僕、ちょっとどうかなと思います。やはり飲食店だけですと、各家庭で例えば行きますと、それぞれの家庭が集まるということになりますと大きな集団になりますので、その辺についてどうかなと、そこだけ本当に疑問を持っています。

それと、この商品券なんですけれども、前も何度かプレミアム商品券の取扱いをされてみえますけれども、なかなか利用者が少ないというようなことであります。今回説明の中で、どこで販売されるかというようなことも全然述べられませんでした。何とか、やはり一般質問でもありましたが、最寄りの近くで取扱いができるようにしていただかないと、わざわざ商工会まで来るといことは、大変この今の状況から見ても大変だと思うんですね。例えば郵送で送るとか、いろんな広告を入れてそれに基づいて申込みを郵送で送ればもらえるとか、やっぱり何か考えていただかないと弱者についても大変だと思うんですが、その辺についてどのように考えてみえるのか答弁をお願いしたいし、もう一点だけ、せっかくこういった補正を組んでみえますので、現在バス会社、そしてタクシー業界もそうなんですけれども、一番心配するのは学校給食センター等の運転手さんね、そういったバス業界の方が大体給食センターの運転手もやってみえると思うんですが、こっだけ学校の給食も3月なかった、そして3月、4月、5月も旅行関係のバスが全然動かないという、これは全国的にそうなんですけど、あるところではバスを売って職員の給与を払うしかないというような営業を今されています。

そういったことで、やっぱりそういった方面にも対策をしっかりと打っていかないと、方針としてね、市の。学校給食センターも安心して配って、いざ蓋を開けたら配る人がいないと、そういうこともあり得ますので、その辺についてどう思ってみえるのかもお聞きします。以上です。

○議長（各務吉則君）

答弁を。

観光商工部長。

○観光商工部長（細江博之君）

2つ目に質問を頂きました販売所でございますが、今年度実施をさせていただきました商品券と同じように、市内の14の郵便局で販売をさせていただく予定であります。

それから、市民への周知につきましては、食事券の引換券、そちらのほうを郵送させていただ

きまして、引換券です、あくまでも。その中には当然、購入できる事業所でありますとか、それからそれが利用できる事業所、そういったところのチラシをしっかりと引換券と同封して市民の方へ周知をしたい。もちろん新聞折り込みもさせていただきますが、第1弾としては、個々に引換券の郵送と購入可能な事業所、それから利用可能な事業所というところではっきり分かるように、市民のほうには周知をさせていただく予定であります。

それから、バス、タクシーにつきましては、先ほど観光の話が出ましたが、今本当に自粛の時期でございますので、非常に厳しいことは承知をしておりますし、先般もバス会社の社長さんとも話をさせていただきましたが、当然バスのほうは密室の構造になりますので、非常に厳しいということは聞いておりますが、今特に観光の関係者とも話をしておりますが、今は大きくこちらのほうから何かアクションをするときではないんですが、ただ、今下呂は非常におかげさまで出ておりませんので、安心であるというところは大きく宣言というか、そういう形はできませんけれども、先般も申し上げましたが遠くではなくて近隣のところから、ややもすると県内の方にはこれまでの事業の中で下呂のほうはそういったところが出ていないし、各旅館でありますとか飲食店、いろんなお店の方たちは自助努力で感染の対策をしっかりとしてみえるというところはしっかりアピールをして、リピーターの方とかそういう方には案内をしておりますが、なかなか今バスを使ってこちらのほうにおいでくださいというような周知は今できないということで、これは私どもと事業所としっかり理解をして、終息したときにしっかりと打っていきこうということで準備をしておるところでございます。以上でございます。

○議長（各務吉則君）

教育部長。

○教育部長（今井藤夫君）

特に学校の臨時休校等に伴う運転手の動向ということであろうかと思いますが、これにつきましては、臨時休校になったときに、市長、副市長も含めて協議をしております。やはり生活給の確保という側面もございまして、運転手さんの流出というか他業種への転換などがないように、県の特別支援学校などとも協議をしながら、最大限の配慮はさせていただくつもりでありますのでよろしく願いいたします。以上です。

[挙手する者あり]

○議長（各務吉則君）

4番 今井政良君。

○4番（今井政良君）

販売店、また市民への周知については今ので分かりました。最初にこういったことを述べていただくこういった質問する気はないので、今後こういった分かっておることは最初から述べていただくということが大事ではないかなということを思いますので、今後ともよろしく願いします。

それから、私が一番心配しておった給食の運搬される業者さん、会社ですね、特に3月からあ

あいった状況で、特に大型もしくは大型2種というようなことで限定された特殊な人なんです。やっぱり仕事がないとほかへ、やっぱりこういった状況なので転職されるという方もあるんですが、今ほど見ると、事業所についてある程度、市として運転手さんへの給与については対応しておるといふことでいいんですか。今後もするといふことでいいんですか。その辺だけお願いします。

○議長（各務吉則君）

教育部長。

○教育部長（今井藤夫君）

学校給食センターの配送のことについては、ちょっと今ここで即答はできませんが、スクールバスの関係についてお願いしておるところについては、県の特別支援学校のほうでも配慮をされるといふようなことは聞いておりますので、最大限の配慮はさせていただく予定でおります。以上です。

[挙手する者あり]

○議長（各務吉則君）

4番 今井政良君。

○4番（今井政良君）

スクールバスの運転手についてはといふことですので、給食のほうについては全然まだ対応は考えてみえんといふことやもんね。やっぱり今後もそういった市の業務、事業をやってみえる、その辺に対する運転手さんの確保についても、しっかりやっぱり給与ぐらいは補償してやるような気持ちでないと、なかなか特に給食ですので事故を起こしてもらっても困ります。子供が食べられなくなりますので、ぜひ子供のスクールバスもそうですし給食もそうですが、やっぱり運転手の確保といふことも大事なことなので、しっかりとその辺だけ支援をしていただくようにお願いします。以上です。

○議長（各務吉則君）

教育部長。

○教育部長（今井藤夫君）

当然ですが、市のほうで勝手に、ここは業務がないので払わないといふようなやり方はしておりません。個別の事業者さんと御相談をさせていただきながら、その辺のところは進めさせていただいておりますのでよろしくお願いをいたします。以上です。

○議長（各務吉則君）

ほかに。

[挙手する者あり]

10番 一木良一君。

○10番（一木良一君）

今回の対策ですけれども、5,000円のお金を払って7,500円のものが出られるといふことで非常

に魅力であると思います。ただし、私はさっき14番議員が言われましたように、飲食業のみというのが私もこれは残念であると、これはやっぱり小売業も、全ての業種が影響を受けております。ですから、飲食業並びに小売業まで広げるように、この対策を浸透して使っていただきたいということを思います。

そして、今個人消費を喚起するという事は非常に大事であるというふうに思いますけれども、中小零細企業、市内の企業の方が、今年の2月からほぼほぼ状況が悪化してきております。法人に対して、例えば職員の方、社員の方の雇用を維持しようとするとはやはり休業補償なり、そして雇用調整助成金なりそういったものを使うしかないわけですね。ですから、そこでそういった手続の速やかなことを下呂市がやれるように、そして例えば、法人に対しては恐らく下呂市も湯水のごとく補助ができないと思います。ですから、法人等に対しては利子補給を速やかに対応できるようなことを考えていただきたい。

政府のほうも、マスコミが言っていますけれども、今回のコロナウイルスのほう、過去のいろんな感染症を見ますと、ワクチンができる、開発されるまでに1年半、2年かかると。ですからコロナウイルスも恐らく終息するまでには1年半、下手すれば2年かかるということを聞いております。ですから、こういう第1弾で下呂市がこう出された、しかしこれが1年、1年半も続けば何らかの対策を次から次へと打っていかないかと思うんですよ。そうしますと、市ができることは限られている。さっき言いましたように、湯水のごとく金は出せません。ですから、いろんな部分で、国や県のやる経済対策に対して下呂市が速やかに支給ができる、支援ができるというようなことをしっかりとやっていただきたい。

そういうことなんですけれども、先ほど言いました、小売業者まで幅を広げるということに、今回の方向を広げるわけにいかないのかどうか、お聞きしたいと思います。

○議長（各務吉則君）

市長。

○市長（服部秀洋君）

先ほども答弁いたしましたけれども、今食料品であったり、特に健康食品が本当に売れておるそうであります。やはり御家庭に見えて体調、コンディションを維持しようということでそういった方が非常に増えて、好調な部分もあるというように聞いております。そういった中で、全店共通の商品券等でありますと、単なるばらまきの政策になってしまう。もちろん国や県もいろんな対策を考える中で、市として今考えるべきことということで、今回こういった提案をさせていただいたところでございます。

当然議員御指摘のように、湯水のように財政豊かなものでもございません。しっかりその辺については、国、県の歩調を合わせながら、また連携しながら、実は本日も午後から地元選出の代議士と私ども飛騨3市1村でつくっております首長連合、こちらのほうで新型コロナウイルスに対する意見交換をさせていただきます。しっかりと連携し、また出すときは、これはもう非常事態でありますので、そのときにはしっかりと身腹を切って覚悟を決めて向かうつもりでおります。

以上でございます。

[挙手する者あり]

○議長（各務吉則君）

10番 一木良一君。

○10番（一木良一君）

恐らく、来年度のこの税収は相当落ち込みます。ですから、落ち込む税収分ぐらいは、腹かけて出すぐらいのことをやっていただきたい。先ほども触れましたけれども、1年、1年半というふうに長期化した場合に、今回の対策の次に手を打っていかないとまずいと思うんですよ。その辺に対して、長期的な展望を持ってみえるのかどうか。その辺をお聞きしたいと思います。

○議長（各務吉則君）

市長。

○市長（服部秀洋君）

特に融資の関係でございますけれども、差し当たり1年間は利子補給をさせていただく。しかしながら、今お話があったように、これがいつまで続くか分かりません。そういった場合には、もちろん延長して利子についても補給をさせていただきます。また保証料等は、当然かかるものは、これもこちらのほうで補助させていただきますし、それ以外にも例えば返済時期、これについてもやはりいろいろ考慮してくる必要があると思いますので、しっかりその辺は意見を聞きながら対策を取ってまいりたいと思います。以上でございます。

[挙手する者あり]

○議長（各務吉則君）

10番 一木良一君。

○10番（一木良一君）

国の対策に大きく関わってくると思いますけれども、同時進行、同時に同じ歩みで同じペースで進んでいかないかんと思うんですけれども、要はこういった簡略化ですね、利子補給にしてもそして支援にしても、簡略化をやってくださいよ。そして1年間保留とか、1年間返済を猶予するとかということもやはり必要ですので、腹かけてしっかり実行していただきたいと思います。

○議長（各務吉則君）

観光商工部長。

○観光商工部長（細江博之君）

今の手続の簡略化ということで、よく補助金とか助成制度をつけても、なかなか手続が難しいとかややこしいという状況がこれまでもありました。既に商工会、我々もそうですが、国の制度、それから県の制度、私ども先般補正をさせていただきましたが、その制度の一覧表を作成しまして、商工会並びに事業所のほうに通じて配布をしたいというふうに思っております、先般も御質問いただきましたが、窓口の充実ということで、特に金融機関、それから商工会のいろいろな

担当者、商工会の事務局、そういったところにも広く情報をしっかり簡略化してお伝えして、法人の方、事業所の方が迷わないように、簡単に申請ができるような、また内容がしっかり分かるような資料を作成して周知したいと思っております。以上でございます。

[挙手する者あり]

○議長（各務吉則君）

13番 中島達也君。

○13番（中島達也君）

今、3名の方が言われたんですが、全く同感でございます。そこでちょっとお聞きしたいのですが、まず下呂市の姿勢として、先ほどストレスがたまるから外出せよと言われたんですが、一方では自粛せよと、まずどっちなのか、その辺をはっきりしてください。

それと飲食店、これは今下呂市内に何店舗ぐらいあるのか、その辺も確認します。それから1万2,147世帯というのは、これは下呂市の全世帯数なのか、まずそこだけ確認します。

○議長（各務吉則君）

副市長。

○副市長（村山鏡子君）

今ほどのストレスの件でございますけれども、行政は感染防止と、それから事業のいわゆる経済活動の停滞ということでの支援という、いわゆる表裏一体のような形での支援が今求められております。感染防止については様々、メール、広報等での皆さんへの周知をしまっております。でも、いわゆる先ほどのストレスという言い方はちょっと正確な言い方ではなかったかも知れませんが、皆さんが内に籠もるのではない、外に出ることも必要であろうかという中で、の動機づけのためにも、こういった商品券を使うことで、市内のいわゆる生産業者、飲食店の方の支援も含めてやるということで、それは集団化しようということではありませんけれども、そういった形で皆さんの一定のルールを守りながら飲食をしていただきながら、活性化にも結びつけていながら、そういったストレスといいますか、そういった解消にもなるのではないかとということも含めてこういった支援にしておる状況でございます。

○議長（各務吉則君）

観光商工部長。

○観光商工部長（細江博之君）

店舗数につきましては、今我々としましては、一旦下呂市の食品衛生協会加盟事業者のところ、に周知をさせていただきます。いわゆる保健所のほうに届出をしてみえる店舗になろうかと思いますが、それが今名簿を頂きますと600事業所ほどございまして、全てがこれから多少の審査といたしまして、そういうことが必要になろうかと思いますが、厨房を設けてお客様に食事が提供できるとか、そういったところもしっかりと精査する必要があるかと思いますが、現在頂きました対象名簿としましては、600事業所ほどあるということです。

世帯につきましても、現在のところ3月1日現在の世帯数で1万2,000余の世帯数となっております。

ります。以上でございます。

[挙手する者あり]

○議長（各務吉則君）

13番 中島達也君。

○13番（中島達也君）

もう一度市長にお聞きしますが、今のコロナ対策として要は外出を自粛するのか、あるいはそういう目的に応じて外出してもいいのか、その辺のちょっとコロナ対策としての方針をしっかりと聞かせてください。朝、教育長のほうから、誠に申し訳ないんだけど、入学式は一応議員の方は遠慮していただきたいというようなことがあって、やはりまだまだそういった集団といいますか、人が集まる場所に出るということは自粛していかないかんという思いがあって、いろんな総会シーズンがこれから始まりますが、イベント、いろいろも全部延期、自粛、中止というような形になっているわけですね。

要は、今、高齢化率が4割ぐらいある中で、高齢者の外食という習慣はそんなになんかと思うんですよ。そういった高齢者に外食を促すようなことはちょっと無理があるんじゃないかというふうに思うんですね。それから、そういうことです。飲食店も、昼間営業される飲食店、夜に特化した飲食店、これは夜といえば通常飲み屋さんというんですか、高齢者の方、また若い子供さんなんかは行くことはないと思いますね。この619ですか、この店舗に内訳というのは分かんないんですが、やはり幾ら食事券を出したことによって、その効果というのは非常に期待はできないというふうに考えております。

それと今朝も、会えば本当に資金繰りが大変だ、旅館が全く暇で休め休めというような声を今日も二、三人の方から聞いたんですが、先ほど安定資金の融資の件ですが、これは希望すれば全事業者に救うことができるのか、実際のところ、保証料の問題だとかいろいろ市長が言われたんですが、困っている方に本当に救済できるのか、その辺のことをもう一度確認します。

○議長（各務吉則君）

市長。

○市長（服部秀洋君）

幾つか御質問がございましたが、まず初めに行政の役割という話をさせていただきます。

やはり私どもとしては、市民の生命を守ることが一番重要であると思っております。そういったことから、東京事務所に配属をしておる職員もこちらのほうに呼び戻しました。また、3つの密、そして不要不急の外出を控えるという部分でございますが、先般飛騨市さんのほうでは、その辺については飛騨市はやらないという話もされておりました。観光立市下呂として、どこまでその辺の境を設けるのか、本当に悩ましいところでございます。先ほど副市長が申しましたように、表裏一体の部分がある。もちろん経済活動としてもしっかりとこれも支援していかなければいかん部分がございます。

そういったことから、現在、まず子供たちにおいては、グランドの開放等を行っておりますし、

また放課後児童クラブについても、6校については継続して行っております。

また、高齢者について、高齢者でそんなに外出をするかというようなお話でございましたけれども、家族で食事に行かれたり、そしてまた喫茶店でよく集まってモーニングに行かれるような、そんな姿も目にしております。そういったことでまた高齢者の方々、お話がそういった場でできるようなことならば、そういった意味ではストレスの解消にもなってくると思いますし、例えば温浴施設でもランチ等が取れるわけでございますので、そちらについての利用も可能ということでございます。そういったことから、今回の補正を提出させていただいたということでございます。以上でございます。

○議長（各務吉則君）

観光商工部長。

○観光商工部長（細江博之君）

融資に関しましては、先般、県の融資を御利用いただくと、セーフティネット4号という、20%売上げの減少とかそういった縛りはございますが、そういったところも今少しずつ緩和をされたり、セーフティネット5号が発令されたということで、そういうところも事業所のほうでしっかりとそういう情報が分かるということと、それから民間機関の融資事業、それについても利子を補給させていただくように対象としておりますので、県のほうの事業は当然商工会とか、そういうところで御理解をいただいておりますが、特に金融機関のほうには御相談いただければ、いろんな事業所が、当然セーフティネット4号、5号ございますが、しっかりと相談に乗っていただけると思いますので、全事業者のほうに御利用いただけるというように思っております。

○議長（各務吉則君）

副市長。

○副市長（村山鏡子君）

今ほど観光部長が言いましたけれども、先日金融機関との会議を開きました。その中で、様々な、いわゆるコロナに対する商品が金融機関でも出されております。その中で、金融機関と行政は、今のコロナ対策に頑張るんだという一致した思いで乗り切りたいということも、一緒に合わせて皆様とすり合わせしたところでございますので、金融機関で借りられるような、貸付けを申請される方につきましては、当然金融機関も丁寧に御説明申し上げるというようなことも聞いておりますので、一緒になって進んでいきたいと思っております。

[挙手する者あり]

○議長（各務吉則君）

13番 中島達也君。

○13番（中島達也君）

資金につきましては、行政ができる限度というのがあると思うんですが、できるだけそのハードルをとにかく低くしていただくような努力をしていただきたいと思います。

それから、まだいまだにマスク等がやっぱり不足しているということで、簡単に入手できない

という状況が続いております。これから花粉症のシーズンで、またマスクの需要というのは本当に多くなるんじゃないかというふうに思っているんです。実際、ある店舗では時間を決めて限定販売されておるようなところもあるようですが、実際問題として、それも一部の方しか購入できないというような状況で、むしろ足のない高齢者なんかとてもそんな対応はできないわけです。今もし下呂市にストックがあれば、民生委員を通じたり、子供さん、それから高齢者の方、そういったことも対応していただければ大変ありがたいなというふうに思っております。

あと、私は食事券については一応反対です。商品券ということであれば、今回の提案は納得できるものと思っております。この前、商工会のほうから要望が出ておりましたね。その辺の対応についてクリアできているのか、最後に確認します。

○議長（各務吉則君）

観光商工部長。

○観光商工部長（細江博之君）

商工会の要望につきましては、先般、商工会連絡協議会の会長がお持ちになりまして、我々も同席をさせていただいてお聞きしましたが、融資、先般19日に最終的に補正をさせていただきましたが、そういった融資の充実でありますとかそんな話をさせていただきまして、御理解は頂いております。

〔挙手する者あり〕

○議長（各務吉則君）

1番 尾里集務君。

○1番（尾里集務君）

皆さん言われるように、意見は同じなんですが、私の思いとして、5,000円ないし1万円出での2,500円、5,000円の商品券ということでございますが、仮に1万円出して買うっていうのは、私自身としてはどうなのかなということを思いまして、2,000円、2,500円、5,000円を全世帯に配って、それを使ってくれというふうであれば皆さんもらえるということでございますけど、前回の子育て支援のプレミアム商品券を発行されましたけど、あれはなかなか売れなかったというのが実績であると思うんですけれども、今回この緊急事態で、プレミアム商品券、この食事券を買って使ってくれというのは、皆さん買われるのかどうかというのは僕の中では疑問であります。仮に2,500円でも全世帯に配れば、その券は必ず手元にあるので使いましょうというふうになるのではないかなということを1点思います。

もう一点ですけど、これは飲食店へ行って使うということで、飲食店業者さんとかいろんな方の支援にはなりますけれども、市民一人一人の支援ということであれば、私は市税、税収にも関わってくるんですけれども、市税を軽減するとかそういったことをやっていけば、市民みんなが納得する、そうじゃないかなということを思います。そういった施策は考えていないのか。

また、もう一点、今この下呂市にはコロナウイルス感染が来ておりませんが、岐阜県でも徐々に増えています。もしこの下呂市に入ってきた場合、その施策はしっかりと考えてあるの

か。その辺、市長お願いします。

○議長（各務吉則君）

市長。

○市長（服部秀洋君）

一番最後の質問に答えさせていただきます。

先ほど申しましたように、やはり私どもの使命は市民の命を守ることが第一でございます。当然、1人下呂市内で感染者が出たということになれば、先般奥飛騨を旅行されたというだけで奥飛騨は大打撃を受けておるわけでございます。そういったことから、もちろん、非常事態については常に危機感を持って対応するとともに、まずはそういった方を、感染者を出さないことを一番に政策を進めてまいりたいと思います。以上です。

○議長（各務吉則君）

総務部長。

○総務部長（河尻健吾君）

税の軽減のことでございますけれども、現在税の軽減というのはございません。こういった事態においては徴収の猶予という制度がございますので、まずそちらのほうで対応していくということになるかと思っております。以上でございます。

○議長（各務吉則君）

副市長。

○副市長（村山鏡子君）

これまでのプレミアム商品券、大変使われる方が少なかったという結果がありますけれども、今回、プレミア率を大変高くしております。それで、購買の金額が大変大きいので買えないというそれぞれの事情はあるかとも思いますけれども、先ほど来言いましたように、いわゆる買う側、使う側の萎縮・自粛の萎縮ということも大変考えなくてはならないことではないかなと考えております。買われる方の、今後どんなふうに理解されるかはちょっと分かりませんが、我々もいたしましては、何とか家族で食事を楽しんでいただきながら、そういった萎縮ムードも取っ払っていただけるような一つの形になればなあというような、そんなことも思っております。

[挙手する者あり]

○議長（各務吉則君）

1番 尾里集務君。

○1番（尾里集務君）

皆さん言われるとおりで、答えも一緒だと思いますけれども、片端では出るな、片端では出ようという、市民の方が本当にどうしたらいいんかという不安もあると思うんですけども、やはり今、このプレミアム商品券を買われていかれるという方が下呂市の方々にどれだけ見えるのかというのにはちょっと疑問がすごくあるわけなんですけれども、やはり無料というか、買わなくても券が来れば、ちょっとこれを使おうとかいうような、先ほどの話がありましたけれ

ども、食事だけでなく、やはりマスクが足りないとかトイレットペーパーも、今は復旧してきますけれども、ないとかという生活支援の中でやはりそういったものも買えるような券で、2,500円でも市が負担してあれば、買おうかというようなことは市民の方は思われるとは思いますが、今のお話の中でも、やはり高額で買って、行ってもいいものなのかどうなのかというようなことは、市民の方はすごく不安に思われることだと思いますし、やはり行ったことによって、もしかしてそこで発生をしたら、その人たちが券を使って行ったのに発生してしまったと、またそんな不安な思いもあるんじゃないかなということも思います。ですから、今はこの券という見えるものでいろんな支援ということでもありますけれども、やはり市税はもらわなくてはいけない部分かと思えますけれども、その中でも何とか考慮して、市税のほうを市民の皆さんの軽減という形で何かできないものなのかということなんですが、その辺はもう考えはないんですか。

○議長（各務吉則君）

副市長。

○副市長（村山鏡子君）

今回のコロナ感染症につきましては、蔓延期と終息期に分けて考える必要があるかとも思っております。いわゆる固定資産税につきましても今後、今始まったこのコロナ感染症でございます。大変大きな被害は拡大はしておりますけれども、下呂市にとって、今後どのようにして進めていくのかというところもまだまだ分からないところもあるわけでございますので、今回のこの商品券をはじめとして、利子補給もございましたけれども、市としての対応として考えていきたいと考えております。

○議長（各務吉則君）

ほかに。

[挙手する者あり]

9番 伊藤巖悟君。

○9番（伊藤巖悟君）

今回のこのコロナウイルスは、非常に一日一日状況が変わると、こういう前提の中で物事、対策を考えなければ問題だろうと私は思っております。3月5日に、私は一般質問で危機管理についての質問をいたしました。そのときではまだオリンピックが中止になるかなんてことは想像ができないという状況でしたけれども、オリンピックは1年延期ということになりました。

それで、じゃあ下呂市にとってどういう状況が出てくるかということになると、今下呂市では、この補正によって1万円で1万5,000円の券が買えると、こういう提案が出ましたけれども、今東京都を見ますと、毎日テレビで出ておりますけれども、とにかく家から人は出てほしくない、こういう判断の中で、世界でも非常に日本を見て、日本はただ自粛をしてほしいというだけで、あれほど週末の状況が国民性であろうと、こういうことで評価をされておる部分が報道されております。

それに伴って、今回の補正予算の中身を見ますと、元気を出すために商店へ行って消費を増や

して、ストレス解消をするがために、7,000万円市が補填をして2億余の予算を組むと。非常に私は、現下のウイルス対策についての状況が矛盾しておると、こういうふうに言わざるを得ない。執行部として、確かにいろんな対策をしっかり考えて手を打っていくという姿勢は認められますけれども、刻々と状況が変わる中で、これはやはり現実をしっかり踏まえながら対応しないとまずい。

そして今後、下呂市において、まださらに危機というものは、それが避けて通ればいいけれども、さらに悪い状況がますます出てくるということを踏まえながら危機管理をしていくのが常であろうと。やはり、よく災害の避難等々についても空振りがいいんだと、こういうことですので、今回のこのウイルス対策は、今話が出ておるには、今のプレミアム商品券の問題、これに併せて、いかに市民が生活をこういう危機の中で維持していけるかという原点をやっぱり踏まえながら、現場の状況をしっかりと自覚しながら、執行部は、行政は手を打つと、こういうことが、やはりもっと深く考えて、こういうような手段を考えていくのが執行部の対応ではないかと私は思いますので、こういう問題についての基本的な今後の取組、考え方についてお伺いをいたしたいと思います。

○議長（各務吉則君）

市長。

○市長（服部秀洋君）

議員の御指摘がございましたように、この状況はだんだん悪化しておるところでございます。当然こちらの今回提案させていただいた商品券につきましても、冒頭に申しましたが、その3連休の動向を見た中で、では今こういった手を打とうかということで協議をいたしました。だんだんいろんなところで発生がしてくる中で、最悪、今回のこの食事券についても、どこまで利用していただけるかというのははっきりつかめないところがあります。しかし、そういった場合は、そういったところでまたそのチケットを換金する等、元に戻しながら、また次の手段を講ずべきものが私どもの務めであると思っておりますし、まずは現況をしっかり国、県の動向を踏まえながら連携して進めていきたいと、そのように考えております。

○議長（各務吉則君）

副市長。

○副市長（村山鏡子君）

市の危機管理体制でございますけれども、緊密に今、各部との連携を取りながら対策本部会議を開催しております。こういった中で、岐阜県内にもコロナの症例があるわけでございますけれども、下呂市といたしまして、こういった情報、それから分析、共有をしながらこの本部会議の中で決定し、市民には速やかに周知していくということを常に考えておるところでございます。

今はマスクがない、トイレットペーパーがないというようなお話もありましたけれども、徐々に解消にはなっていくと思っておりますけれども、ただそれを、市が持っているマスクを市民の皆さんに出すということはできませんけれども、医療機関、介護施設等には市のほうから提供している

ということも踏まえ、今後そういったことから、全て市民の方にこういった感染予防、それから今後どうするのかということについても周知を続けてまいりたいと、そんなふうに考えております。

[挙手する者あり]

○議長（各務吉則君）

9番 伊藤巖悟君。

○9番（伊藤巖悟君）

執行部も大変苦慮されておるといことは分かりますし、教育長も先ほど、新学期は計画どおり始めると、こういう説明もありました。

私は、今後皆様方をお願いしたいのは、我々議員も一緒ですけれども、やはり市民の現場に立って、市民の実態に立って、我々は対策を怠らないようにお互いにしっかりと意見交換をしながら、市民の安心・安全のために、そして下呂市の不安をなくすためにお互いに力を合わせるということが、今近々の課題であろうと申し上げて、質問を終わります。

○議長（各務吉則君）

市長。

○市長（服部秀洋君）

私も今回こういった議会に提案をさせていただいたところでございますが、場合によっては緊急性が高いものについては、専決処分という形で実施をさせていただくことも御理解を賜りたいと思います。よろしく願いいたします。

[挙手する者あり]

○議長（各務吉則君）

11番 吾郷孝枝さん。

○11番（吾郷孝枝君）

この発表が、提案がされたときに、市民の方にちょっといろいろお話を聞きました。そしたら、やっぱり今この時期にお店へ出かけて行って食事をするようなことはないので、幾ら1.5倍のおまけがついていてもそれは買わないと、こういうことをおっしゃる方が、高齢者はもちろんですけども、若いお母さんたちもそういうふうにおっしゃいます。若いお母さんたちは特に、もしできたら家でごちそうを食べたいとかそういうふうで、これから4月は特にお祭りなんかもあるし、そういうことで、もしそういうことなら家でやりたい。それから高齢者の方で、外へ行って食べるというのはどうも心配なので、お弁当を取って、近所の高齢者の方が集まってお弁当を取って集うというのか、そういうことをやってみえる方も見えました。

こういうことから考えると、本当に今この対策は、非常に大事だと思いますよ、お店を活性化するということは。大事だと思いますけれども、そういう方たちもぜひ利用していただけるように、先ほど皆さんもおっしゃっていたように、この対象、対策をもっと広げるように。お弁当を出しているような事業所もこれが使えるという形も大事かなと思いますし、市長もさっきらっ

と言われましたけれども、特に高齢者の方、朝モーニングという形で結構何人か喫茶店へ行ってしゃべる場をいろいろ設けたりしてみえますので、そういうただ食事をするとかそういうことじゃなくて、喫茶店へ行ってモーニングをやるような方たちも使えるようなふうにするとか、もっとやっぱりもっと具体的にみんなが使いやすいようなことが大事じゃないかなと思って、ただこのネーミングだけでいきますと、グルメプレミアム商品券となっているので、グルメでない駄目なのかなと思ったりいろいろしますので、この辺もやっぱり具体的に市民の方が使えるような形にしていけるといいというふうに思いますので、それから、特に皆さんの気持ちも大事だと思います。なるべく外出を控えようという。この券を使える期間、どのくらいを見てみえるのか、その点でお尋ねします。

○議長（各務吉則君）

市長。

○市長（服部秀洋君）

先ほど観光商工部長が説明させていただきましたけれども、食品衛生協会のほうには当然仕出しの業界の方も入っておられますし、喫茶店の方も入っておられます。また、今回それ以外でも手を挙げていただける方があれば、またこちらで審査をするというような形にしております。

それとチケットでございますが、1枚一応500円という券でございますので、そういった軽い形でも御利用いただけるんじゃないかと思っております。

また、期間でございますけれども、一応現状では、チケットが確実にできる可能性があるのは4月の半ば、それからすぐ発行いたしまして6月末ということで予定をしております。以上でございます。

[挙手する者あり]

○議長（各務吉則君）

11番 吾郷孝枝さん。

○11番（吾郷孝枝君）

この券をもう少し、1年とか長く検討できないのかということ、そうすると結構みんないろんな記念日とかに使いましょとか、そういう気にもなっていくと思うので、そういうことがもう少し、期間6月末ということだったらちょっとあまりにも少ないし、尾里議員が言われたように非常に売れ残る可能性が高いんじゃないかなということをお考えしますので、そこが1つと、先ほど売れ残った場合は、市長も言われましたように、売れ残った分これだけ予算、市からの支出が一般会計6,000万ほどですね、この分でほかのほうへもっと回していくという対策を次々と立てていけるといいのか、その点をちょっと確認したいと思います。

それからもう一つ、今井議員もおっしゃっていましたが、聞きますところ、バス会社、ここが本当に4月、5月、全然予約が入っていない、3月もほとんどなかったということで、結局維持費がすごく大変らしい。バスなんかを抱えてみえるところなんかは、これからもこの1年間もどんと落ちた分、車検もありますし保険のこともありますし、いろんな点で維持費のことを

心配してみえるんです。そういうところの部分の対策がぜひ必要じゃないかなということと思うんですが、この点でお答えください。

○議長（各務吉則君）

副市長。

○副市長（村山鏡子君）

今回のプレミアム食事券ですけれども、これにつきましては、当然市民の方に御利用していただくということはもちろんでございますけれども、いわゆる事業者に対する支援も当然あるわけでございます。各市内には飲食業の事業者ばかりでなく、様々な事業者があるわけでございますけれども、先ほど来市長さんも申しましたけれども、今後速やかに手を打っていくということでございます。それで今、4月から、3月いっぱいは大変まだ飲食業の皆さんもお客さんがあるようでもありますけれども、徐々に少なくなっている、それから送別会のキャンセルもあるということで、特に4月頃からそういったじわじわというところが特に来るのではないかとということで、4月から今始めるわけでございますけれども、今後この飲食業の事業者の方たちをはじめ、これから様々な事業者への手を打っていくということでございますので、御理解を頂きたいと思えます。

[挙手する者あり]

○議長（各務吉則君）

2番 中島ゆき子さん。

○2番（中島ゆき子君）

最近はコロナ鬱という言葉も出てくるぐらい、自宅に引き籠もることによっての精神的ストレスというのも、最近では報道されております。全国的に学校が臨時休校を取る中で、普通どおり授業をするという決断をされた自治体もあります。そんな中で、飛騨地域は今のところコロナウイルスの感染者が出ておりません。あまり自粛という形をしますと、本当に地元の皆さんが楽しみがなくなってしまう。高齢者の方も、近所の喫茶店に集まって話をするということが大変楽しみにしてみえますので、入り口のところには消毒があったり、当然熱があれば病院へ行くというような対処もしてみえますので、やはり自己の健康管理をしっかりしていただくというようなことの周知をしていただきながら、最近ではこのコロナウイルスの前兆として、味覚とか嗅覚がなくなるというような前兆もあります、そういうところも気をつけていただく。当然熱があれば外出を控えていただく、そういうことの気をつけていただきながら、やはり下呂市内はまだ安全ですよという形で、この今グルメ食事券ですけど、発行していただくことによって皆さんに元気を少しでも与えていただくという、こういうことも大事だと私は思っております。

この議案が出てきた時点で、私も周りの人に聞きました。吾郷議員、先ほど控えるというような方の話をされましたが、私の周りの方は、ゴールデンウィークに子供たちが帰ってくるので楽しみにして使おうかなというお話をされる方もあります。このコロナウイルスがどこまで広がるか先が見えないので、やはり市としても対応はその都度変更していく必要はあると思えます

けど、今のグルメ食事券、終息が長引くようでしたらまた期間を延ばす、どうしても無理なら返金していただく、それはもう臨機応変、このコロナに関しては先が本当に見えない、テレビでいろんな方が解説をしてみえますけど、やはり分からないという状況ですので、ただその中であまり下呂市内で萎縮はしないほうが私はいいと思っておりますので、その辺、市としての考えをもう一度お願いいたします。

○議長（各務吉則君）

市長。

○市長（服部秀洋君）

今お話ありましたように、やはり手洗いの励行であったり、まずは御自身の健康管理はもちろんでございますけれども、現在サロン活動等も休止をしておる中、やはり少しでもお話をされることによって心の部分のケアであったり、そういうことは重要ではないかと思っております。お話がありましたように、臨機応変に対応しながら、柔軟性を持って今回のこの食事券についても対応してまいりたいと思っております。以上でございます。

○議長（各務吉則君）

ほかに。

[挙手する者あり]

3番 田中副武君。

○3番（田中副武君）

今、ほとんどの議員さんのほうからいろいろお話がありまして、ちょっと確認だけさせていただきたいのが、第2弾、第3弾ということも考えながら臨機応変にということの説明がございましたが、今の議員さんたちのお話、やっぱり食事だけに限るといってお話が主な内容だったと思いますが、この経過を踏まえて、また普通のプレミアム商品券とかいろんなことも考えていくという、第2弾、第3弾ということで、そういうふうに捉えていいのかということと、あと県のほうも今、商工事業者に対しての窓口というものを4月の半ばぐらいだったと思うんですが、総合庁舎にその相談窓口ができるというお話を伺いました。またそういうところ、県との連携を図りながら、先ほど観光商工部長のほうから下呂市のいろんな制度、そういうものもチラシで作って配っていきたいというようなお話もありましたが、またその県の相談窓口も、いろんな制度とか縦覧的に扱うことができるような制度なんかも一緒に紹介していただけるような、そんなお話を伺っております。

ですから、ちょっと県との連携もしっかりと取るということも大事だと思いますので、ちょっとその辺の県との連携の状態というか、進行状況なんかも確認をさせていただきたいと思っておりますので、お願いいたします。

○議長（各務吉則君）

観光商工部長。

○観光商工部長（細江博之君）

先ほども質問がありまして、今も質問ございましたが、とにかくいろんな情報がたくさんございますので、本当に分かりやすく、もちろん国もまだまだ未定のところはございますし、県も未定のところもございます。未定でありながらも、こういった状況があるというところはしっかりとお伝えしたいということと、ただ未定でありながら、間違っただ情報が行ってしまふといけませんので、その辺はしっかりとこちらのほうで情報を確認して、今間違いなく使っていただけるしっかりとした情報を、県との連携の中で進めていきたいと思ひますし、県の窓口も、今言われましたけれども、我々も制度を持っていますので、我々の制度もしっかり県のほうにもまた国のほうにもお伝えをして、また連携していただけるものは向こうのほうからも情報を頂けるような、その流れは常にしっかりと良好な関係の中で、しっかりと常に情報が行き交うような体制には整えておきながら、それとしっかりと市民のほうに、末端まで届くような、事業所のほうまで届くような仕組みを、常に体制を整えておきたいというふうに思っています。

○議長（各務吉則君）

市長。

○市長（服部秀洋君）

先ほどいろいろ御質問を頂いた以外の業種以外にも、まだこれから影響が出てくる業種は多分にあると思ひます。実は私ごとで、家業のことなんであれですけど、土産品の業界はかなりひどいです。そういったことで、またそちらにも含めて、いろんな業種の中で皆さんから意見を伺う中で、先ほど申しましたように専決という形で、適時適時に必要なときに必要な事業をしっかりと進めてまいりたいと思ひます。以上でございます。

[挙手する者あり]

○議長（各務吉則君）

3番 田中副武君。

○3番（田中副武君）

そのときそのとき、状況を見ながら判断をしていくというお話でした。

今、国のほうの動向も首相は10日間ぐらいで、これまでの最大規模となる補正予算を10日間ぐらいでまとめ、国会のほうに提出し、ゴールデンウィーク前までに通過させていきたいというようにお話、公明党としては現金給付1人10万円、所得制限なしでというようなものもその中に入れていただくように、今、党を挙げてやっておるわけなんですけど、いろいろ国の動向とか、そういうものも適時変わってくるということでもありますので、執行部の皆さんにおかれましては、いろんな情報が当然入ってくると思ひますが、いろんな部分で市民のためにアンテナをしっかりと張って、連携を取りながらこれから対応をしていただきたいということをお願いしたいと思ひます。以上です。

[挙手する者あり]

○議長（各務吉則君）

8番 中島博隆君。

○8番（中島博隆君）

皆さんの意見を聞いていましたけど、私としては今回のグルメプレミアム食事券というのは、全国的なコロナウイルスの流れの中では、この対応ってちょっとまだ早過ぎるのかなと私は思っております。というのは、下呂というのは観光立市で、今のところコロナウイルスというのは出ていないところで、経済が疲弊しているのは確かです。確かですけども、やっぱり家族から、今下呂市へ帰ってきている、都会から帰ってきて子供たちを預かっている子も大分います。そんな中で下呂市は今安全やというところで、みんな多分、田舎へ子供たちを帰しながら暮らして、引き取っている人たちもたくさん見えますので、そこで今出ていないからここで活性化をしようというのは、すごくいい企画ですけども、もしというのが、まだこれ予測ができないんですよ、実際の話。もしというのがあって、存外国やら県のほうでも対応をしている流れの中で、これやって結果がよしならいいけれども、結果の流れの中でこのプレミアの、食事券だけじゃなしにいろんなところで人が集まるというのが僕としてはあんまり、自分でも控えるようにしている流れの中でこれを活性化のためにやろうかなというのが、まだ先の見えない流れの中でこれがいいのかどうかというのが、僕はちょっと心配はしています。もう少しやっぱり皆さんが自衛をしながら、やっぱりこの状況をしっかり見詰めて僕はやったほうがいいと思います。

その中には、先ほどから皆さんが言われたように、食事だけでなしに、経済の利息にしても商売の人たちをどういうふうに助けるかというのは、今この中でいろんなことを考えながら施策は打っていかなければならないんですけども、今の時期にこれって、全国的にどういう企画があるのかも分かりませんが、まだ僕もあまりいろんな企画というのは全国的にどういうのをやっているというのは聞いていませんけれども、もう少し、時期尚早で、もうちょっとゆっくりでもいいかなと思っています。僕の意見はそれです。

○議長（各務吉則君）

副市長。

○副市長（村山鏡子君）

先ほども申しましたけれども、事業者への支援というところで、今回この食事券の予算をつけておるわけでございますけれども、今後様々な業種がある中での支援をしていくということは、さきに申しましたとおりでございます。

当然、利用者の方、市民の方が利用されるに当たりましては、いわゆる予防をしていただくということは当然でございます、外出時の3原則は当然守っていただくような形にはなると思いますけれども、ただし、先ほど申しました4月15日からを一応予定としておりますけれども、それまでに情報が時々刻々と変化しているわけでございますので、その状況が大幅な変わり方をした場については、また見直していくということも考えております。

〔挙手する者あり〕

○議長（各務吉則君）

8番 中島博隆君。

○8番（中島博隆君）

先ほど市長も臨機応変にやるというのは、僕も大事なことだろうと思います。ぜひ、もしやるなら、そこら辺の今の全国的な情勢を見ながら、やっぱり食事券が4月中旬からの販売になるにしても、その時期の状況がどうなっているか分からないところで販売に出すというのは、やっぱりそこら辺からもう考えていかないと駄目だと思いますので、今ここでプレミアム食事券を作っても、やっぱりそこら辺の状況が一変していったときには、予算の執行というのは僕はなかなか難しいと思いますが、そこら辺の臨機応変というのは、そこら辺まで考えた市長の考えか、ちょっとお伺いしてみます。

○議長（各務吉則君）

市長。

○市長（服部秀洋君）

県、国のほうから非常事態宣言等が出されれば悠長なことは言っておれませんし、この事業についても中止すると、当然考えておるところでございます。

○議長（各務吉則君）

お諮りしますけれども、引き続き質疑のある方は。

休憩を取りたいと思いますけれども、よろしいですか。

[発言する者あり]

じゃあ続行いたします。

[挙手する者あり]

12番 中島新吾君。

○12番（中島新吾君）

今たくさん皆さんの皆さんが言われている、本当に皆さん心配されている状況がよく分かりました。

それで、1つ大事な点というのかな、市の姿勢として、市民に対して皆さんと一緒にあって本当にこのコロナウイルスの大変な状況を乗り切っていきたいと思います、その先頭に立って応援できるところは全部やりますよという、ここを示すことが一番大事だと思うんですね。その意味で、こういうやり方、不十分な食事券だと思いますよ、仕組みとしては。皆さんが指摘されているようにいろんな問題があるとしても、やっぱり打っていくことが今大事かなとは思いますが、ただそうではあっても、もっと本当に困っている人は先ほどから皆さん言ってみえるようにたくさん見えるので、そこへも第2弾、第3弾、計画的にこういうことも考えているということは、市民にしっかり分かっていただくということ、その周知はしていくということが大事だと思います。そういう意味で、今まだ発生していないので皆さん不安は漠としていると思うんですよ。かかったらどうしようとか出たらどうしようっていう不安が大きい。市民の一般の方ね。しかし、実際に下呂市内で発生したりということになったら、また局面が変わると思うんです。例えばこの下呂市の中でも、今川辺町まで出ていますが、金山町にとったら川辺町は隣です。買物に行くところですよ、本当近くなんです。こちらのほうの方はそんなに川辺町のほうまで買物に行くこ

とはないと思うんですね。だから、そういう意識の差というのは必ずありますので、そういう点で、やっぱり不安に応える総合的な窓口、相談員というんですか、何を聞いてもらってもいいですよという窓口が市に必要だと思うんです。今、健康福祉部のほうがその窓口になっていますが、そこだけじゃない、いろんなことを聞く窓口という、市民の皆さんが不安を感じたときにぽっとかけられるところを明確にしておくということが一つ絶対に必要だと思うんです。言わばワンストップ相談窓口のような、こういうのが絶対要ると思うんです。

それから、中小業者の皆さんの実態把握をするための相談窓口、これも今本当に皆さん死に物狂いで頑張ってみえるし、運営していくお金が回ってこないというので本当に大変な状況です。これについては、やっぱり執行部は、自粛要請してそのために事業者の経営が厳しいんですから、それは支援する、当たり前なんですよね。特に国がそういう姿勢に立ち切る必要があると思うんですけれども、そういう点では融資だけでは限界ですよ、利子補給や保証料の補助だけでは。免除という部分、それから支払いの延長、期間を延ばすというのも大事ですけれども、融資は必ず返さなあかんのですよね、先々。年配の経営者にとってみると、ううん、ここで借金するのかということで本当に迷ってみえる、不安になってみえる方が見えますので、その点ではしっかり返さなくてもいい、そういう制度もしっかり考えていく必要があると思います。

取りあえずこの2点。

○議長（各務吉則君）

市長。

○市長（服部秀洋君）

今回の新型コロナウイルス対策については、状況変化の中で随時私ども対策を協議してまいりたいと思いますし、冒頭に申しましたように、本日3市1村の意見交換をする中で、また新たに問題が発生するようでしたら、その都度に緊急に集めて開催をするつもりでおります。

また、相談窓口でございますけれども、医療であったり福祉であったり、教育であったりいろんな分野があります。横断的に危機管理のほうが中心となって、部局横断的な対応を取ってまいりたいと思います。以上でございます。

[挙手する者あり]

○議長（各務吉則君）

12番 中島新吾君。

簡潔明瞭に、12番 中島新吾君。

○12番（中島新吾君）

業者のほうの対応で、そこら辺について、それで部長も言ってみえたように、申請をサポートするような、そういうことをやらないと本当にお年の皆さん、国のほうの制度は変わっているでしょう、これからも変わっていくと思いますので、ここら辺も含めて対策というんですか、対応をお答えください。

○議長（各務吉則君）

観光商工部長。

○観光商工部長（細江博之君）

先ほどから、窓口の充実につきましては当然のことでございますので、市の商工課だけではなくて、商工会、金融機関との連携の中でしっかりと正確な情報を伝えていくということでございますし、先ほど少し事業継承ということが出ましたけれども、非常にこれ、金融機関も商工会のほうも非常に心配をされておられまして、そもそもがこういった問題がございましたけれども、ここで拍車がかかってしまうのではないかと、要は事業をやめるということですね、非常に心配なんです、当然そういった先ほどの融資ではございませんけれども、借入れは借入れでございますので、なかなかそこまで返さなくていいというところまではなかなかできませんが、今後の経営計画をしっかりと、1か月、2か月だけでなくて終息した後、長期的にしっかりと事業計画を立てられるような、そういった仕組みも商工会との連携の中で、事業所のほうに窓口をつくれるような、しっかりと指導ができるような体制を整えていきたいと思っております。以上でございます。

○議長（各務吉則君）

ほかに。

[挙手する者あり]

14番 中野憲太郎君。

先ほど3回質疑をされましたので、これを最後によりしくお願いいたします。

○14番（中野憲太郎君）

今日の2年度下呂市一般会計補正予算（第2号）ですが、これについて執行部では先ほどからの説明で、本当に日々対策本部を開いて協議してみえと、また3市1村においてもいろいろ国会議員の方も招いて協議されるという話がございました。市も今日、万全を期して、下呂市のまず第1弾ということで出されたということだと思います。

私は、今かえって皆さんに、2億800万ですか、2億200万の補正について、この名前は下呂市グルメプレミアム食事券、これに充てる金額を今日協議してきたということは、私はこの名前でやるのは、非常に私としては4月17日以降にこういう食事券の議論ならしていただきたいということでございます。というのは、食事は我慢しても何かを食べていれば生き延びることはできるんですね、何か月か、1年ぐらい。しかし、こういうことによってウイルスにかかってしまった、高齢者のために亡くなってしまったといったら、もう一生食事ができないんですよ。それをどう考えてこの今日の議案を出されたかということ、一言だけ聞きたい。そして、私は自分で採決に加わりますので、よろしくお願いします。

○議長（各務吉則君）

答弁を、市長。

○市長（服部秀洋君）

先ほどもどなたかの質問に答弁をいたしました、これは3連休の経過を見た結果、今回提案

をしたところでございます。日々状況が変わる中で、果たしてこの提案がどうかということかと思いますが、まずは皆さんの御判断の下に、また当市としても対策を取ってまいりたいと思います。以上でございます。

○議長（各務吉則君）

ほかに質疑はありませんでしょうか。

〔挙手する者なし〕

これで質疑を終結いたします。

お諮りします。ただいま説明いただきました議第72号は、会議規則第37条第3項の規定によって委員会付託を省略したいと思っております。これに御異議ありませんでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

異議なしと認めます。よって、本件については委員会付託を省略することに決定いたしました。これより討論を行います。

まず、原案に反対者の発言を許可いたします。

討論ありませんか。

〔挙手する者なし〕

次に、本件に賛成者の発言を許可いたします。

討論ありませんか。

〔挙手する者なし〕

討論なしと認めます。

これで討論を終結いたします。

これより採決を行います。

議第72号 令和2年度下呂市一般会計補正予算（第2号）、本件を原案のとおり決することに賛成の方は挙手を願います。

〔賛成者挙手〕

挙手多数です。よって、議第72号は原案のとおり可決されました。

◎閉会の宣告

○議長（各務吉則君）

これをもちまして、本臨時会に付議されました議案は全て議了いたしました。

ここで一言、現任期最後の議会に際しまして、お礼の言葉を申し上げます。

今、非常事態として新型コロナウイルスの対応のため、市民一人一人が防衛対応することが重要と思われまます。その結果、早い終息を願うものであります。

下呂市議会はこれまで情報公開し、市民参加を促進し、議会機能の強化、この3点を基に開かれた議会を目指してまいりました。二元代表制の下に議会が変わることで、市民が変わり、市がよくなっていくよう将来に向けて希望いたします。ありがとうございました。

これをもちまして、本臨時会に付議されました議案は全て議了いたしました。

これで、令和2年第2回下呂市議会臨時会を閉会いたします。御苦労さまでございました。

午前11時33分 閉会

以上会議の次第を記載し、その相違ないことを証するためここに署名する。

令和2年3月30日

議 長 各 務 吉 則

署名議員 14番 中 野 憲 太 郎

署名議員 1 番 尾 里 集 務